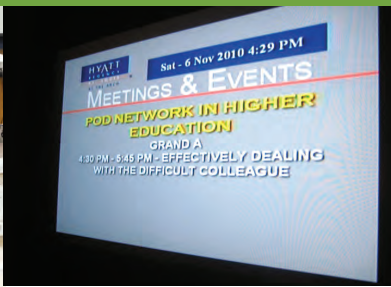


KYOTO FDC NEWSLETTER



成績評価編

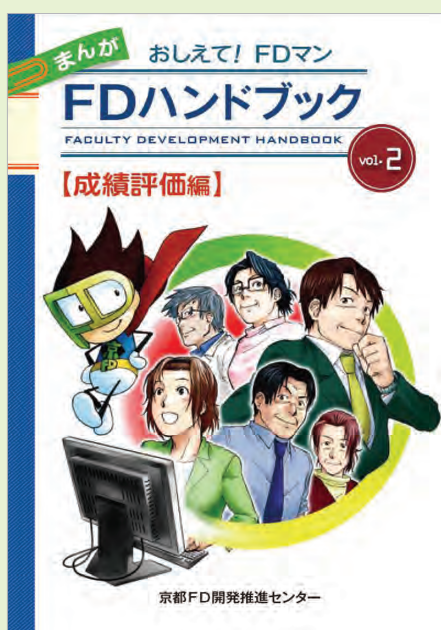


まんがFDハンドブックVol.2を刊行しました

本センターFD研修プログラム検討WGでは、このたびまんがFDハンドブックの第2巻として、『成績評価編』を刊行しました。昨年度発刊した第1巻『新任教員編』は、連携大学・短期大学の全教員に配布したほか、全国の大学関係者から多数の送付申込があり、2度にわたり増刷を重ねて、これまでに約4,500冊配布しています。

今回の第2巻は、現在の大学・短期大学が求められている卒業生の質管理や学生の学習を重視した成績評価など、教育効果の評価に関するトピックを取り上げました。教育の現場において先輩たちが積み重ねてきた経験を共有し、また教育学や評価理論の知見を紹介することを目的としつつ、第1巻に引き続きマンガによる表現を取り入れ、手軽に手に取っていただけるハンドブックになっています。

送付ご希望の方は、本センターHP(4頁下部参照)よりお申し込みください(送料とも無料です)。



第1章 成績評価の目的と機能

- Q1 どうして成績評価をするのですか？
- Q2 評価をする時には何に注意すべきでしょうか？
- Q3 授業の到達目標と評価基準は、どのように設定すればよいでしょうか？
- Q4 厳格な成績評価ってどういうことですか？
- Q5 GPAは何のために出すのですか？

教育評価の第一歩 I. 教育達成度評価

第2章 成績評価の方法と特徴

- Q6 試験は授業内容をすべて網羅すべきでしょうか？
- Q7 到達目標(学習目標)は必ず評価対象にしなければいけませんか？それ以外のものを評価対象としてはいけないのですか？
- Q8 小テストはした方がよいでしょうか？
- Q9 学生の成長度を成績評価基準としてもよいのですか？
- Q10 平常点を客観的に付けるにはどうしたらよいでしょうか？
- Q11 レポートをなるべく客観的に採点したいのですが？

教育評価の第一歩 II. カリキュラム評価

第3章 フィードバックと学生の自己評価

- Q12 評価を学生にフィードバックするには、どのような方法がありますか？
- Q13 形成的評価とは、どのような評価なのですか？
- Q14 納得性のある評価をするにはどうしたらよいでしょうか？
- Q15 学外実習等の評価が、教室内の評価と大きく違う場合には、どうしたらよいでしょうか？
- Q16 学生から成績評価に対する疑問が出されました。どう対処したらよいでしょうか？

教育評価の第一歩 III. 授業評価

第4章 こんな時どうしたら…

- Q17 TAが採点を担当することは許されるのでしょうか？
- Q18 酷似した内容のレポートが見つかったのですが、どうしたらよいでしょうか？
- Q19 レポートでWeb情報のコピーはどの程度まで許されるのでしょうか？
- Q20 どうして成績の提出期限があるのでしょ

教育評価の第一歩 IV. 教員評価 V. キャリア教育の評価

第5章 大学の基礎知識

大学の起源、教養教育、大学設置基準、単位制度、大学評価、大学改革

(第1巻【新任教員編】も配布しておりますので、第2巻と同様にお申し込みください)

第8回京都FDer塾を実施しました



▲ 田中智子氏



▲ グループディスカッションの様子 ▼



佛教大学社会福祉学部では、“授業連携”という視点から「共通シラバス」や「授業内容・運営の共有化」に向けた準備が進められ、今年度は実習授業の共通テキストを作成しました。授業連携をどのような問題意識のもと、どのような方法で進めようとしているのか、また授業連携を行う際に共有すべき内容と教員の裁量権を認めるべき内容、授業連携の方法と授業の性格等についてご報告いただきました。

グループディスカッションのテーマとして、“統一した評価基準と、学生状況の引き継ぎ”と、“大学独自の教育理念、教育方針と社会福祉現場の持つ理念、専門職養成の方針とのすり合わせ”、の2点が提起され、2つのグループに分かれて活発な討議が行われました。

テマ：授業連携の視点と方法

話題提供：田中智子氏（佛教大学 社会福祉学部）

日時：10月25日（月）18時30分～20時30分

会場：池坊短期大学

参加者：25名

アンケート結果より抜粋

- ・評価基準についての必要性と共に、その設定の困難性を再認識できた。
- ・各教員の裁量をどこまで認めるかということが、授業の性質などからその都度考えなければいけない重要な点であることが共有できた。
- ・授業連携は、導入期教育だけでなく、専門課程においても活用できる手法であることを知ることができた。
- ・意見を述べ合う規模と人数が多いところでは、テキスト作りなど通じて合同授業が有益であるということが確認できた。

『2010年度夏季研修・調査報告書』を刊行しました

2010年度夏季に実施したFD研修および調査活動の報告書を刊行しました。

ご希望の方は、本センター（4頁下参照）まで、お問い合わせください（無料）。

内 容

●国内連携FDネットワーク調査報告

大学コンソーシアムやまがた

FD・SDコンソーシアム名古屋

八王子未来学／大学コンソーシアム八王子

FDネットワークつばさ

大学コンソーシアム石川

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

●メルボルン研修・調査報告

Deakin University

Monash University

Gordon Institute of TAFE

The University of Melbourne（研修）

●ボストン研修・調査報告

Colleges of the Fenway

Emmanuel College

Wheelock College

Simmons College

Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences

●海外研修・調査報告会資料

●ICE D2010参加報告



WG活動状況報告

1. FDer 養成WG

- 第8回京都FDer塾「授業連携の視点と方法」実施
- 第9回京都FDer塾 ポスターセッション
「連携大学・短期大学のFD活動から学ぶ」実施

2. FD研修プログラム検討WG

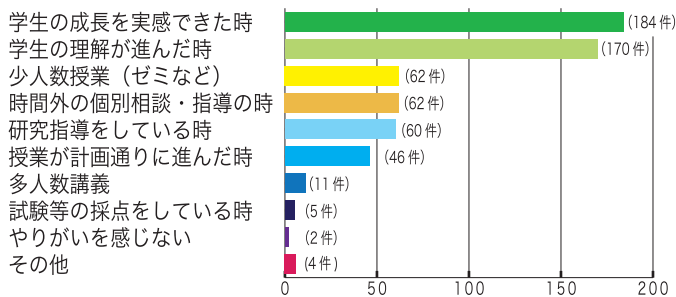
- 『まんがFDハンドブック』Vol.2【成績評価編】刊行
- 新任教員合同研修《プログラムB》の企画

3. FDシステム検討WG

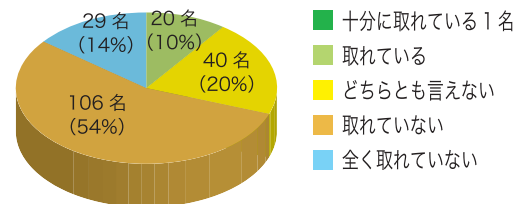
- クリッカー授業実践（佛教大学）
- 教育へのICT活用の教員意識調査（第4回）実施
- 第3回連携大学教員意識調査の分析

連携大学・短期大学全教員を対象にした第3回教員意識調査を、WEBアンケートシステムREASを利用して実施しました。196名から回答があり、FDシステム検討WGではテキスト解析ソフト“TrueTeller”を活用して分析を行いました。集計・分析結果は各連携大学にフィードバックするとともに、本センターHPにも掲載しています。

(1) あなたは授業（教育面）で、
どのような時に“やりがい”を感じますか？



(2) 研究時間をご自身にとって必要なだけ
取れていると思いますか？



研修・学習会報告

アメリカ・セントルイス（POD参加報告）

11月3日～7日にアメリカ・セントルイスで開催された全米最大のFDネットワークであるPOD（Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の年次大会に参加してきました。毎日50から80を超えるテーマの講演や論文発表があり、活発な討議とワークショップが行われました。約700名の参加者は、米国以外ではカナダやオーストラリアからの参加者が多く、日本からの参加者は約30名でした。



日本（WEBアンケートシステム“REAS”学習会）

本センターでは、放送大学ICT活用・遠隔教育センターが開発・運営しているREAS（Realtime Evaluation Assistance System）を活用して4回にわたって連携大学の教員意識調査を実施しています。FDシステム検討WGの公開学習会として、同センターの芝崎順司准教授をお招きし、開発の意図、全国の大学で活用されている事例に加え、今後の改善や開発についてもお話いただきました。



REASのサイトより (<http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/top>)



▲ REASトップページ



▲ REAS調査票設問画面



▲ REAS調査票画面

公益財団法人大学コンソーシアム京都主催
第 16 回 F D フォーラム

第 4 ミニシンポジウム
「新任教員研修プログラムの構築と実践」

日 時：2011 年 3 月 6 日（日）10：00～15：30

場 所：京都外国語大学

報告者：川島啓二氏（国立教育政策研究所 統括研究官）

沖 裕貴氏（立命館大学 教授）

井上史子氏（立命館大学 講師）

林 久夫氏（龍谷大学 教授）

コーディネーター：深野政之氏（前センター専門研究員、一橋大学 特任講師）

参加申込は、大学コンソーシアム京都 HP（<http://www.consortium.or.jp/>）からお願いします。

新任教員合同研修《プログラム B》

日 時：2011 年 3 月 12 日（土）13：00～18：00

場 所：キャンパスプラザ京都

①京都の大学・大学のまち京都

重田裕之氏（大学コンソーシアム京都 副事務局長）

②授業デザインのための基礎知識ワークショップ

井上史子氏（立命館大学 講師）

日 時：2011 年 3 月 13 日（日）9：30～17：00

場 所：キャンパスプラザ京都

①さまざまな授業形態（模擬授業）

南 直人氏（京都橘大学 文学部 教授 専門分野：西洋史学・食文化研究）

森原規行氏（京都精華大学 デザイン学部 准教授 専門分野：デジタルコンテンツ）

②成績評価のための基礎知識ワークショップ

圓月勝博氏（同志社大学 教授）

参加対象：本プロジェクト連携大学・短期大学に赴任して数年以内の教員
（対象者の範囲は各大学の任意とします。）

参加申込は所属大学のご担当者に取りまとめて頂いております。

プログラムの内容については、京都 FD 開発推進センター（center@kyoto-fd.jp）

までお問い合わせください。



F D に関するご質問にお答えします

F D に関する基本的なご質問に回答するとともに、各大学等が抱える個別のご質問等を把握し、可能な限りその質問等にお答えできるよう F D Q A を開設しております。

この F D Q A は、2007 年度から「大学コンソーシアム京都」京都高等教育研究センターが web 掲示板を開設し、試行的にご質問等を受け付けてきたものを、2009 年度より本センターが引き継いで運営しているものです。

講演会等の講師紹介、ワークショップ等のプログラムに関するご相談

連携大学・短期大学の F D 活動を支援するため、F D に関するご相談を受け付けています。講演会、研究会、シンポジウムやワークショップを企画する際に、そのテーマに詳しい講師の紹介、プログラムの相談等に応じます。

授業コンサルティング

連携大学・短期大学の授業に関わる個別相談に対応しています。先生方の授業の組み立てや授業運営上の悩み等に応じるとともに、先生方の要望により教室の中に入ってカウンセリングをしたり、授業ビデオの収録や受講学生への聞き取り、授業検討会等を行うことによって、経験豊かな教員、専門家からアドバイスを受けることができます。

いずれも下記連絡先にお問い合わせください。



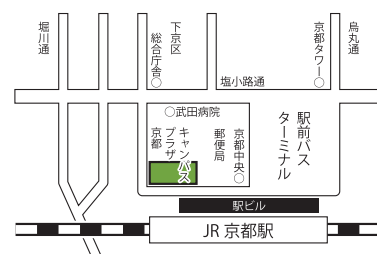
発行・連絡先：京都 F D 開発推進センター

〒600-8216

京都市下京区西洞院通堀小路下ル キャンパスプラザ京都 6 階

TEL：075-353-9122 FAX：075-353-9101 E-Mail：center@kyoto-fd.jp

<http://www.kyoto-fd.jp/>



※本センターが収集した個人情報は、本センターの行事運営と情報提供に目的を限定し、適切に管理します。

2011 年 1 月発行